

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

東日本大震災支援ボランティア（第17次）

7月30日から8月6日の8日間、岩手県大船渡市にて、東日本大震災に関わる連合の被災地支援ボランティア活動にとりくんできました。

今回の第17次からは、ベースキャンプが大東町にある丑石（うしいし）小学校校舎になり、私たちの班は図書室で寝泊りしました。中々快適でした。ただ、毎晩のように地震があり、緊張感がありました。

ボランティア活動は、毎日、割り振りが変わり、さまざまな活動をしました。

日教組グループは、民家の床下のへドロ撤去や工場地帯の側溝のへドロ出し、そして、ガラスの破片だらけの土地の整備などを行いました。

岩手県大船渡市。津波はその土地で暮らす生活のすべてを飲みこんでいました。津波の被害の為に、桜が咲かない春、そして蝉が鳴かない夏がそこにはありました。

88歳のUおじいちゃん。今日もガラスを取り除いているのでしょうか？

Kさん。へドロを取り除いた後の床下消毒は終わられましたか？

『本当はこの家を取り壊そうと思っていました。だけど、私の故郷の家です。ボランティアの方々が私たちの為に頑張ってくれる姿を見て、もう一度、この家で暮らしたいという、小さな希望が今日みえた気がします。』



被災者の方から頂いたジュースは、涙の味がしました。

一人ひとりが、一人ひとりを支える日々。ボランティアとは、復興とは、被災地の方々に、そしてふるさとを思うその「思い」に、徹底的に寄り添うこと。



ボランティアを終え、福岡に戻ってきました。

道路があり、街路樹があり、家があり、信号があり、人々の暮らしがある。今は、その一つひとつに、かけがえのない輝きを感じます。微力でしたが、全国の日教組の仲間たちとこのような貴重な機会をいただき、感謝しています。

最後になりましたが、毎日ボランティアのアレンジや、連絡など、私たち第17次の頼れるリーダー、日教組の佐野さんに、私たち一同大変お世話になりました。

そして、ベースキャンプと現地ボランティアのコーディネーターにご尽力なされている上杉さんに心から感謝し、報告といたします。